旭 自治会 だ よ り

令和６年 10 月 1 日　第81号　発行 旭自治会
ＴＥＬ：０７７１－２２－５５３３
ＨＰアドレス：kameoka-asahi.com（ＱＲコード）

やっと涼しくなりました

今年の夏は、またまた観測史上例のない連続の厳しい猛暑でした。５月には２５℃の夏日となり、６月には３０℃に迫る真夏日、その後は７月、８月、９月と連日３５℃を超える猛暑日の連続でしたこの４カ月間は暑いのが当たり前のようで、特に３５℃以上の猛暑日も例年になく多く、最近になって３０℃が涼しいと感じるような気がしました。ようやくお彼岸が過ぎて、１０月は流石に朝夕の涼しさを迎え、ようやくの秋と言える季節になりました。
　皆様には日々ご健勝にてお過ごしのこととは存じますが、夏の猛暑のお疲れは出ておりませんか、ご自愛ください。

　さて、旭町内では９月猛暑の中で、お米の刈り取りが最盛期となり、多くの新米が「なごみの里あさひ」で販売され、大人気となりました。今年は例年になくお米の流通が逼迫し、各地の販売店でお米が店頭から消えるような現象となりました。「令和の米騒動」と言う言葉も聞かれました。実際には一定の流通量は確保されていたと言われておりますが、もっとも、この現象に大きな影響を与えたのは、８月８日に宮崎県で起きた震度６の地震でした、また追い打ちをかけた、気象庁の南海トラフ地震の震源域での大きな地震ということで発表された、大規模地震への注意呼びかけでした。
　すでに全国では７月からお米の販売額が例年の１．５倍位になっていたものが、このことでお米の需要にさらに拍車がかかり９日と 10 日で約２倍になり、特に臨時情報がでた地域、東海地方や近畿で２．５倍、備蓄に使用するパック米等を含めたお米製品に至っては、東海地方で４．５倍、四国でも３．５倍になったようです、これは災害に備えて買占め等が起こったのではないかと、報道されました。ちょうど新米が流通する直前でもあり、今年度の米価に強く影響したようです。
　米生産農家には、数十年に起こるか否かの強気の米価でした。

　今回の状況は、各地で発生する自然災害等に備えて、災害用品の備蓄は必要ですが、買占めの行為は非常時の心理として理解できるものの、絶対控えなければならないものです。ちなみにこの時、お店の水のコーナーも売り切れ状態だったとか。

　１０月になりました。今年こそ猛暑はもっと続くと思いましたが、やっぱりお彼岸を過ぎれば、例年通り「朝夕めっきりと秋の気候ですね」と挨拶ができることに安堵しています。

　短いであろう秋の過ごしやすい気候と、ますます美味しくなる地元野菜等、秋の味覚をしっかり楽しみたいものです。

旭町自治会長　　吉　川　　肇

新トイレ完成～亀岡市旭町自治会事務所～

令和6年8月29日（木）からトイレ増築工事が行われていましたが、令和6年9月13日（金）に工事が終わりました。今までは1つだったトイレが3か所になり使いやすくなったと思います。

皆さん気持ちよくご利用ください。

令和6年度 旭町敬老会　開催

～令和6年9月16日（月・祝）～

令和6年度旭町敬老祝賀会を9月16日（月 祝）に開催しました。65名の参加者で賑わいました。桂川孝裕市長はじめ、多くの来賓参加のもと楽しく開催することが出来ました。みなさんご存じの通称「カワヒガシの美空ひばり」ショーから始まりました。その後、カラオケで楽しそうな一時を過ごされたと思います。皆さんが今後も健康で笑顔で暮すように願います。次年度も皆様とお会いできることを楽しみにしています。

１０月お知ら

- 10月　6日（日）　J1 サッカー観戦日
- 10月　6日（日）　防災フェスタ　亀岡運動公園
- 10月 29 日（日）　特別感謝デー　午前9時から　なごみの里あさひ
  「アグリフェスタ 2024」 出店　亀岡駅北広場

夢を描くことから始まる　～川勝義郎様～

私は、普段「夢絵巻」や「ふるさと街づくり連絡協議会」の話を聞いてはいたものの、実際にどのように進められたのかを知りたくて、詳しい人を尋ねたところ「それは川勝義郎さんだ」と教えていただきました。そこで、平成18年から平成25年まで旭町の自治会長を務めた川勝義郎さんにお話を伺いました。

川勝義郎さんの時代の旭町

川勝さんが自治会長だった頃、旭町では何があるとすぐに「やってみよう！」という声が上がるほど、行動力のある住民が多く、みんなで積極的に取り組めたそうです。

なごみの里あさひの誕生

旭町では、空き地（現　なごみの里あさひ）の活用方法を巡って様々な意見が出ていました。例えば「老人ホームを作ろう」という声もありましたが、敷地が狭くて実現できませんでした。次に「旭町で作ったものを販売できる場所を作ろう」といった意見が出ましたが、具体的にどのような施設にするか決まらないままでした。

そこで、農業工学研究所の意見を取り入れて、現在の「なごみの里あさひ」という施設が誕生しました。

旭町の活性化への取り組み

もともと「なごみの里あさひ」の場所は、旭町だけの集落排水処理施設の予定地でした。しかし、亀岡市がもっと広い範囲の処理場を計画されていたので旭町も川東処理場に結論が出ました。空き地になった場所の有効利用を亀岡市に相談を持ち掛けました。その結果、京都府の紹介で農業工学研究所と繋がり、「旭町の地域活性化について」具体的に話し合いを始めることになりました。

まちづくりの具体的な活動

その後、地域の活性化を目指し、「まちづくり勉強会」や「ワークショップ」を何度も開催し、住民同士が集まり意見を出し合いました。今でも自治会講堂に貼ってある「旭町みらい散策マップ」は、その取り組みの成果の一つです。活動の中で、地域づくりのキーワードとして「旭町の魅力　あったらいいなーこんなもの」キーワードに掲げられました。

ふるさと街づくり連絡協議会の設立

こうした勉強会を続ける中で「一つの組織を作ろう」という案が出て、「ふるさと街づくり連絡協議会」が設立されました。この協議会は「地域コミュニティ部会」「地域農業推進部会」「環境美化部会」の３つの部会に分かれ、それぞれの部会が役割を担いながら、旭町をより良くするための活動を進めていきました。

「夢絵巻」の意味

「夢絵巻」という名前には、「こういうことをやりたいな」「こんなふうになったらいいな」といった頭の中に描いた夢を一つずつ実現していく、という意味が込められています。「夢を描く」ことが、未来につながる第一歩だという考えです。

この「夢絵巻」の由来を聞いたとき、私はとても感動しました。大人も子どもも関係なく、どんな小さなことでも思い描いた夢を少しずつ形にしていくことの大切さを実感しました。

叶えられなかったこと

最後に、川勝さんに「自治会長として、叶えられなかったことは何ですか？」と伺いました。川勝さんは「人と人とが交流できる場所を作れなかった」と話されました。その理由として、以下の点を挙げられました。

- 旭町の歴史や文化を若者たちに伝える場所がなかった
- 同年代の住民同士が気軽に集まれる場所が少なく、世代間の交流も不足していた

このような場があれば、地域の伝統を伝えたり、高齢化が進む中でも住民同士が健康を保ちながら繋がれるきっかけになったかもしれません。

最後に

川勝義郎さんのお話を通じて、旭町の取り組みと夢を知ることができ、感動しました。地域の方々が力を合わせて行動してきたこと、そして夢を描き続けることの大切さを学びました。

川勝義郎さんは、旭町が、住民みんなが「戻りたい（ I shall return）」と思える場所であり続けることを願っています　と締めくくられました。